

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0841	
施設名	北保育園	
施設所在地	国立市北3-1-1	
法人名	社会福祉法人国立保育会	
活動期間	令和8年2月から3月	
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL	https://kunitachihoikukai.jp/kita/?cat=6

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	野菜の不思議 <4・5歳児> 冬の畑づくり					
実施回数・期間 (注2)	合計3回（内訳：令和8年2月2回 3月1回）					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
		人	人	人	12人	15人
活動内容 (注3)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向け畑づくりを行う。 ・野菜の種を調べよう。 					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか シャベルの使い方を丁寧に伝えてから畑に行くことで子ども同士で使い方を伝えあっていた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 子供たちの言葉をメモで記録するとともに、活動の様子をタブレットを用いて写真にて記録した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子どもたちの発見から活動を発展させるため、ひかりのテーブルや種子の標本を用意しておいた。保育者は子供の主体性をもとに活動を展開し、見守ることを心掛けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 子どもたちの様子を担任間で伝えあい、子どもにもサークルタイムなどで発表する場を設けた。				
<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、ドキュメンテーションやブログをもって探究活動の様子を周知した。					
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 活動中の子どもたちの反応や興味関心に着目し、図鑑を用いたり絵を描いて掲示することで、活動を発展させた。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0841
施設名	北保育園
施設所在地	国立市北3-1-1
法人名	社会福祉法人国立保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜の不思議 <4・5歳児 冬の畑づくりをしよう>

<テーマの設定理由>

- ・来年度に向け、おいしく元気な野菜を作るために畑の準備をする。
- ・今まで撒いた野菜の種や散歩で見た花などの種子を観察し、植物に興味をもつ。

2. 活動スケジュール

- 2月 シャベルを使い、畑の天地返しを行う。
- 3月 「ヒカリトテーブル」を使い、野菜の種や葉っぱを観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①先が薄くなっているシャベル
- ②種
- ③種子の標本
- ④ヒカリトテーブル
- ⑤ウォーターブロック
- ③～⑤のものを事務所に置いておき、いつでも観察できるようにしておく

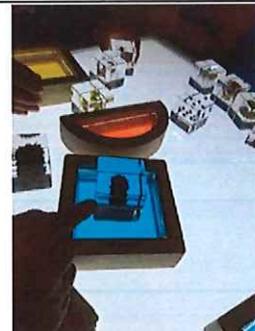
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①シャベルの使い方を丁寧に伝える。
- ②実際に畑に行き、土を掘り、天地返しを行う。
- ③今まで撒いた種をヒカリテーブルに置き観察する。
- ④園庭にある葉っぱや、種子の標本、色水の積み木を使い観察する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ①「柔らかい布団にしてあげよう」と言いながら土を掘り起こしていた。
- ②以前からあるシャベルよりも先が薄くなっていることに気が付き「土が掘りやすい」と言っていた。
- ③光に当て種を見ることで、形や大きさの違いをより細かく見ていた。
「ほうれん草はとげがある」「小松菜は小さくて丸い」
- ④ウォーターブロックを重ねることで、色の変化に興味をもっていた。
「黄色と青を重ねると緑になったよ」
「色の上に種を置いたら色が変わってきれい」



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ①シャベルの先が薄くなっていることで、土が掘りやすく、子どもたちも今までより力を入れずに掘ることができていた。スムーズに掘れるため、楽しかったようでどんどん掘り進めていた。
- ②ヒカリテーブルを使用することで、いつもと見え方が変わり、そのまま見るよりも丁寧に観察する姿が見られた。
- ③色の変化も、色水や絵の具でやるよりも偶然重ねた結果だったため、子どもたちが興味をもち、さらにやってみようとしていた。